

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2001/01/12 Vol. 57 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

あけましておめでとうございます。

いつもお世話になっております。今回は、定例会報告を休ませていただき、印西市の将来と、牧の原地区の今後を、皆様と考えて行きたいと思っております。

成田新高速鉄道 2010年目処に

成田空港の基幹アクセスとなる成田新高速鉄道の事業化推進検討委員会の幹事会は、現在までの検討状況を委員会に報告しました。(検討委員会は、2000年3月に運輸省、千葉県、沿線の関係自治体、新東京国際空港公団、京成電鉄などの各社で構成されております。)事業主体は、京成電鉄が運行を、第3セクターが鉄道整備を行う「上下分離方式」として開業目標年度を2010年度に設定した。事業費は概ね1200億～1300億円と積算され、今後は新高速の路線整備にあたる第3セクターの採算性や巨額の事業費の資金調達方法などの検討課題解決にむけて、早期事業化へ向けた検討が更に進められることとなります。

- 1) 新線のルートは運輸相の諮問機関・運輸政策審議会から答申されたB案ルート(都市基盤整備公団線の印旛日医大からJR在来線の土屋地区/成田ジャスコイオンセンターがある場所、までの間では印旛沼を横断するルートとされています)に沿ったものです。
- 2) 運輸相の諮問機関・運輸政策審議会では昨年、同区間の開業年度について、「2015年度まで」との目処を示しましたが、2002年に成田空港で2本目の滑走路が完成することから、アクセス需要の高まりに対応する為に幹事会報告では、鉄道の設計、環境アセスメント、路盤などの整備を早急に行い、最短の開業目標を2010年に早めることにしたものです。
- 3) 印西市では、検討委員会のメンバーではありませんので、報告についての内容検討は今後、行っていくとのことでした。

子育て支援センター建設工事が始まります。

今年度の印西市の主要事業の一つであった「子育て支援センター」の建設が、今回、話がまとまり、西の原保育園敷地内で始まります。工事期間の予定は今年1月10日～4月末日までの予定です。詳細は「市役所保健福祉部児童福祉課」(Tel42-5111 内線333)まで。

(参考)

子育て支援センター

核家族、孤立しつつある家庭、または子育てに援助を要する家庭等に対して、「相談支援」、「家庭機能の補完、支援」など、それぞれの家庭のニーズに応じた多様な支援を行うことにより、子育てへの不安感の軽減を図り、子育てに喜びを感じることを目指し、まちづくりを推進していくことを目的としています。

市役所 牧の原出張所の移転が予定されております。

牧の原南側地区の開発に伴い、暫定施設である現在の出張所の移転が予定されております。候補としては、西の原ショッピングセンター(スーパーコモディイイダ)の北側と西の原東街区公園の間の土地等です。(距離的な移動は「多少」で考えているようです。)正確なことが決定し次第、皆様にご連絡をさせていただきます。

牧の原の将来を考える（２）

牧の原駅南側に何ができるのでしょうか？今回は「活性化」についてのご意見を数名様からいただきましたので、その中からお一人のご意見をご紹介します。皆様も「活性化」の意味について考えていただければと思います。

今の環境が変わることには少し抵抗がありますが、地域の活性化を考えれば必要と思います。大型商業施設とは、ジャスコ、アピタ？のような施設なんでしょうか？出店先は決まっているとお話ですが、せっかく作るのであれば、流行のアウトレットショップとか、地元のみならず他方から集客ができる施設であれば、鉄道利用者の増加等、間接的な経済効果が期待できると思います。また、着工条件の一つとして、駅前の再整備（中央駅北口みたいに！）、駅へのアプローチとなる広場の整備など、質の高い都市空間の形成を希望します。

「地域通貨（エコマネー）」ご存知ですか？

私が所属する、市議会会派「まちづくり研究会（代表／松本隆志）」では、「地域通貨」の研究を行っており、昨年10月にはこの「地域通貨」の研究のために、北海道栗山町まで視察に行っていました。

「地域通貨」とは、失われつつある地域コミュニティの再生を図るツールとして、全国各地で導入の動きが広がっております。それは、人と人との交流を媒介するという通貨本来の姿を取り戻す試みにも思えます。つまり、「お金」とは人間が豊かに暮らすために発明されたツールであり、単なる取り決めでしかなかったはずですが。しかし、私たちの通常使っている国民通貨は“円”，貿易などに利用されるグローバル通貨はドル”や“ユーロ”です。これらは一般的な財やサービスの交換に使用されたり、銀行に貯えられたり、投資や投機に利用されたりします。

即ち、今までの「お金」は通常の貨幣経済の中で財やサービスの価値を評価し、交換の手段とし、計数の単位として使われているものです。しかし、私達は、このお金だけで豊かになれたでしょうか。

20世紀、私達は工業化の驚くべき発展により物質的には豊かさを享受することができました。しかし、21世紀を迎えた今日、バブル経済の崩壊や金融システムの不安定という従来の貨幣経済の弱点に翻弄され、また環境問題や少子高齢化社会の到来を目前にし、我々はこれらに対応する新しい価値の創造を目指していかなくてはならないと思います。

「地域通貨」はこれらの通貨と異なり、日頃の人々のちょっとした思いやりや助け合いの交換を行う為に考えだされた温かい通貨（マネー）です。

つまり、「地域通貨」とは、お金で表せない「人の温かい心を具現化する」、「ボランティア経済を循環させる」、「コミュニティを活性化する」等など、“善意”を交換する「コミュニティだけで通用する通貨」です。また、21世紀の新しいコミュニティづくりを支援する「コミュニティ通貨」とも言えると思います。

地域通貨（エコマネー）：「地域通貨（エコマネー）」は地域住民が発行し、その地域に合った名前を付けることから始まります。自分は何ができるか、何をしたいか「登録リスト」に登録します。「登録リスト」をみてサービスをお願いし、「地域通貨（エコマネー）」で支払います。善意をつなぎ、人と人をつなぎ、コミュニティを元気にします。

* 地域通貨についての勉強会をしませんか？ご興味があるかたは私までご連絡下さい。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。次回は今回は休ませていただいた、「定例会」の報告を行って参りたいと思います。今年もこの紙面へのご批判、ご意見、また市政へのご提言をお待ちしております。重ねてよろしくお願ひ申し上げます。ぐんじとしのり